

第5学年 国語科学習指導案

期 日 平成23年9月30日(金) 5校時
授業学級 第5学年男子19名女子10名計29名
授業者 高橋 栄敬
授業場所 5年教室

1. 単元名 7 説明のしかたについて考えよう

「天気を予想する」(光村図書「銀河」5年)

2. 単元について

(1) 教材について

本教材は、第5学年及び第6学年の目標(3)「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広めたり深めたりする態度を育てる。」を受け、「C 読むこと」領域の「ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること」「オ 本や文章読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」が学習の中心となる。

本教材は、文章全体を覆う一つの大きな問いが存在せず、一つの問いに対する答えの中から新たな問いが生まれるという関連性を持って、問いと答えが3回繰り返される構成となっている。読み手の思考の流れに沿いながら、自分の主張へと徐々に論の方向性を近づけるような展開であるといえる。また、表・写真・図・グラフなどが効果的に用いられ、説明が展開されている。資料を用いて説明することで、読み手の納得を促すよう意図されている文章でもある。児童にとって、これまで学習してきた文章構成や要旨の読み取りの技能を活用できるとともに、表や写真といった非連続型テキストの効果など表現の工夫についても考えることのできる教材であるといえる。

(2) 児童について

本学級の児童は、叙述内容についての感性が豊かで、読み取った内容に対して感動をもって理解する児童が多い。音読にも意欲的に取り組み、とくに物語文での会話文では、登場人物の気持ちを上手に表現しながら音読できる。しかし、課題解決のための読み取りや発表に対して苦手意識を持っている児童も少なくなく、意欲的に取り組む音読についても、読み落としや読み誤りをする児童が多い。文章の大まかな内容についてとらえることはできるが、根拠となる叙述を明らかにしたり発表したりすることができる児童は少数である。

説明的文章の学習は、5年生になってから次の学習を経験してきた。「見立てる」「生き物は円柱形」では、文章構成に着目して要旨をとらえる学習をしてきた。さらに、読み取った要旨をもとに、筆者に対する自分の考えを書く活動を行った。「百年後のふるさとを守る」では、「伝記」というジャンルの文章の特色について学び、伝記の人物の行動や考え方と、筆者の考えを読み分ける学習をしてきた。

なお、本教材に関連して、写真と本文を対応させて読み取り、説明の工夫について考える学習として、4年生のときに「アップとルーズで伝える」の学習を経験してきている。

(3) 指導について

本単元の次の単元として「グラフや表を引用して書こう」がある。グラフや表を引用・活用した文章の書き方や有効性といった、表現の工夫を学ぶことが本単元のめあてであることを明確にして、学習を進めていきたい。そのために、学習の見通しを掲示等で目に見える形にし、児童が学習のゴールを常に意識しながら学習に取り組んでいけるようにする。

本単元は、文章内容の読み取りとともに、論の進め方や図表や写真といった非連続型テキストの有効性といった、説明のしかたについても考える学習内容となっている。学級の児童の実態を考えた場合、「読み取り」と「説明のしかた」を並行して指導していくことは難しいと思われる。

そこで、はじめに文章内容の読み取りに重点を置いて指導を進めていく。文章構成をつかむ学習では、「見立てる」「生き物は円柱形」で身に付けた読み取りの技能を生かせる学習活動を設定する。その後、文章構成の特徴である「三つの問いと答え」について内容を読み取り、相互の関連性について考えさせていきたい。

次に、説明のしかたについて考える学習に取り組んでいく。本教材から図表や写真、それに関わる文章を省略した教材文を作成し、それと元の教材文を読み比べる学習を通して、非連続型テキストを活用することで文章の説得力が増すことを体感的に理解させたい。

確かに読み取る力を育てるための手立てとして、一人学びでは、発問を工夫・精選して言葉に着目させるとともに、着目した文や言葉にサイドラインを引かせて考える手がかりをもたせたい。また、一人学びのしかたを明示して、自分の考えを明確にできるようにしていきたい。学び合いでは、発問を工夫したり学習内容を構造的に板書にまとめたりすることで、児童の思考や話し合いが深まるようにしていきたい。また、本学級の児童は読み取る力の個人差が大きい。読み取りを苦手としている児童も学習活動に参加できるように、自分の立場を明確にせざるを得ない課題を設定したり、小グループでの活動を取り入れたりなど、学習形態の工夫をしていきたい。

3. 単元の目標

- ◎ 前半部分と後半部分の書かれ方の違いに着目し、筆者が伝えたいことを考えながら読むことができる。
- ◎ 筆者が伝えたいこと、論の進め方、図表などの活用について感想を発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

○ 文章の中での語句と語句との関係を理解することができる。

4. 評価規準

[国語への関心・意欲・態度]

○ 題材，筆者の考え，文章の書かれ方に興味を持って読んでいる。

[読む能力]

○ 筆者が事例，理由や根拠として挙げている事実を読み取っている。【(1)ウ】

○ 筆者の主張，根拠を自分なりに評価する観点を持ち，筆者の主張についての意見を表している。【(1)オ】

[言語についての知識・理解・技能]

○ 語と語の関係に気をつけることで，文の意味がとらえやすくなることに気づいている。【(1)イ(オ)】

5. 単元の指導構想表・指導計画（全7時間）・・・別紙

6. 本時の授業

(1) 本時の目標

段落相互の関係を読み取り，文章全体の構成をとらえることができる。

(2) 本時の指導について

1学期に学習した「生き物は円柱形」で読み取った技能を生かして，本教材の文章構成を考えさせていきたい。

まず，1学期の学習を想起させて，文章構成をつかむという本時の課題に対しても，既習の読み取りの技能や学習方法が活用できるという見通しを持たせる。いくつに分かれるかという課題について，まず「一人学び」で読み取り考えさせる。次に，文章全体がいくつに分かれるのか発表し合い，文章構成の分け方をいくつかのパターンに分類する。「学び合い」では，それらの分け方について根拠を明らかにさせながら，課題解決に向けた話し合いをしていく。その際，文章や言葉を手がかりにした意見が交わされるように，話し合いを整理していきたい。また，話し合いによって児童の思考の深まりを促すために，分け方や根拠が視覚的にも分かりやすい板書を工夫していきたい。

研究主題に関わって，確かに読み取る力を身に付けさせるために，次のような工夫をする。

ア 一人学び

[一人学びの仕方の明示]

1段落から10段落までの段落番号が書かれたワークシートを用意し，区切りの線を引いた時に，まとまりの数が分かりやすいようにする。また，なぜそのように分けたのか理由がわかるように，まとまりごとの「内容」を書き込めるようにもする。

イ 学び合い

[学び合う必要性のある場の設定]

文章がいくつに分かれるのか，結論を一つに絞らせる活動を設定し，課題解決に向けて話し合う必然性を持たせる。

[学び合いが深まるような板書の工夫]

段落番号カードと矢印を活用して、それぞれが考えたまとまりや根拠を視覚的に分かりやすくし、どの児童も話し合いに参加できるようにする。

(3) 具体の評価規準

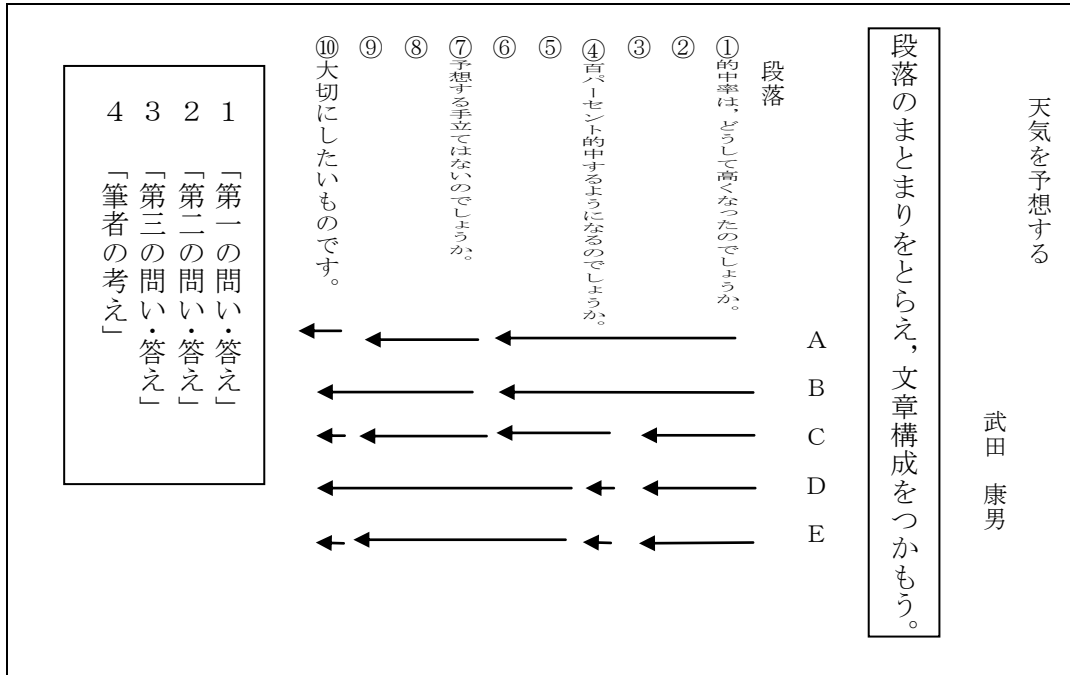
観点	十分満足	おおむね満足	努力を要する 児童への支援
【読むこと】 文章全体が4つに構成されていることを読み取っている。	問いと答えの繰り返しに着目し、根拠を明らかにして文章全体を4つに分けることができる。	文や言葉に着目して、文章全体を4つに分けることができる。	問いと答えに着目させ、段落相互の関係をつかみやすくする。

(4) 本時の展開

段階	指導内容・学習活動	重要語句・文	指導上の留意点 評価
導入・つかむ4分	1. 前時想起 2. 課題把握 ○この説明文の文章構成を考えます。いくつのまとまりに分けることができるでしょうか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-top: 5px;"> 段落のまとまりをとらえ、文章構成をつかもう。 </div>		

<p>展開・深める 36分</p>	<p>3. 本時の学習場面の音読 ・一斉読</p> <p>4. 場面の読み取り <一人学び> 一人学びの仕方の明示 (1) 全文をまとまりごとに分ける。 ○それぞれの段落に書かれている内容を考えながら、まとまりを分けてみましょう。 ○いくつぐらいに分かれそうですか。 <学び合い> 学び合う必要性のある場の設定 (2) 一人学びで読み取ったことをもとに、どのように分かれるか発表する。 ○いくつのまとまりに分けられましたか。 ○どんな分け方をしましたか。 (3) 分け方の理由を話し合いながら、課題を解決していく。</p>	<p>・的中率は、どうして高くなったのでしょうか。 ・では、さらに科学技術が進歩し、国際的な協力が進めば、天気予報は百パーセント的中するようになるのでしょうか。 ・それでは、そうした突発的・局地的な天気の変化を予想する手立てはないのでしょうか。</p>	<p>・どこで分けることができるか意識して音読させる。</p> <p>・「生き物は円柱形」で学習した方法と同じ考え方で取り組めるという見通しを持たせる。 ・まとまりの数を予想させ、見通しを持たせる。 【読】 文章全体を、段落ごとの内容に着目して4つに分けている。</p> <p>・段落カードを活用して、どんな分け方が意見としてだされているか視覚的にとらえやすいようにする。</p> <p>・(2) で出された分け方のうち、どれがよいと思うか自分の立場をとらせ、その理由をノートに書かせる。 ・それぞれのまとまりにどんなことが書かれているか等、分け方の根拠を明らかにしながら話し合わせる。</p>								
<p>終末・まとめる 5分</p>	<p>5. まとめ</p> <table border="1" data-bbox="261 1458 644 1637"> <tr><td>1</td><td>「第一の問い・答え」</td></tr> <tr><td>2</td><td>「第二の問い・答え」</td></tr> <tr><td>3</td><td>「第三の問い・答え」</td></tr> <tr><td>4</td><td>「筆者の考え」</td></tr> </table> <p>6. 次時の学習内容を確認する。</p>	1	「第一の問い・答え」	2	「第二の問い・答え」	3	「第三の問い・答え」	4	「筆者の考え」		<p>・話し合われたことをもとに、それぞれのまとまりに何がかかれてあるのかを整理する。 ・まとまりの小見出しをノートに書かせて、自力でまとめをさせる。</p>
1	「第一の問い・答え」										
2	「第二の問い・答え」										
3	「第三の問い・答え」										
4	「筆者の考え」										

(5) 板書計画



<単元指導構想表>

	1	2<本時>	3	4	5	6	7
目標	教材文を読んで感想を持ち、学習の見通しを持つ。	「天気を予想する」を読み、文章構成をとらえることができる。	予報的中率が向上した理由と、その中率にも限界がある根拠を読み取ることができる。	突発的・局地的な天気を予想する手立てと、三つの「問い・答え」の関連を読み取ることができる。	表・図・グラフ・写真を用いた説明のしかたやその効果について考える。	筆者の考えや説明のしかたについて、自分の感想をまとめる。	語と語の関係に気をつけて文の意味をとらえることができる。
課題	学習の進め方を確かめよう。	全文をまとまりを考え、文章構成をとらえよう。	なぜ、予報を100%的中するのがむずかしいのだろう。	突発的・局地的な天気を予想するには、どうすればよいのだろう。	表・図・グラフ・写真を使うと、どんないいことがあるのだろう。	筆者の伝えたいことや説明のしかたについて、感想をまとめよう。	語と語のまとまりや文の骨組みについて考えよう。
一人学び	一人学びの仕方の明示「天気を予想する」の全文を音読し、初めて知ったことやおもしろいと思ったことにサイドラインを引き、感想を書く。	一人学びの仕方の明示 まとまりの区切りとなる段落を見つけ、段落と段落の境目に区切りの線を引く。	押さえない言葉や文の明確化 問いと答えが書かれている段落を見つけ、中心文にサイドラインを引く。	押さえない言葉や文の明確化 問いと答えが書かれている段落を見つけ、中心文にサイドラインを引く。	一人学びの仕方の明示 表・図・数値などが省略された教材文と原文を読み比べて、違いをノートに書く。	一人学びの仕方の明示 「筆者の考え」「説明のしかた」の観点で、思ったことや考えたことを書く。	
学び合い		学び合う必要性のある場の設定 自分の考えたまとまりについて発表し合い、文章構成について話し合う。	発問の精選・工夫 「科学技術の進歩で取り上げている事例はいくつか。」「『国際的な協力』はいくつ書かれているか。」と発問し、内容を詳しく読み取ら	学び合いが深まる板書の工夫 三つの問い・答えを構造的に板書し、それぞれの問いと答えの関連性について考えさせる。	発問の精選・工夫 「二つのうち、『なるほど』と分かりやすいのはどちらですか。」と発問し、表・図を活用した説明の有効性について考えさせる。	学び合う必要性のある場の設定 自分の考えと同じ部分や違う部分を見つけさせながら、互いの意見を聞きあう。	①語と語のまとまり、②文の骨組み(主述の関係)について、例文を使いながら、意味のとらえ方を考える。
まとめ		文章構成の明示 「第一の問い・答え」「第二の問い・答え」「第三の問い・答え」「筆者の考え」	突発的な天気の変化や局地的な天気の変化があるため、100%的中させるのがむずかしい。	実際に空を見たり、風を感じたり、天気に関することわざを使ったりする。	図や写真、グラフを使うと筆者の伝えたいことがより分かりやすくなる。	筆者の考えや説明のしかたについての感想	
評価規準	【関】天気や天気予報について、興味を持って文章を読んでいる。 【関】学習の見通しをもっている。	【読】文章内容をとらえ、全文を大きく五つのまとまりに分けている。	【読】前半二つの問いと答えを、中心文に気をつけて読み取っている。	【読】三つ目の問いと答えを、中心文に気をつけて読み取るとともに、三つの問い・答えの関連性を考えてい	【読】表・図・グラフ・写真を用いた説明の有効性を理解している。	【読】筆者の考えや説明のしかたに対する、自分の感想を書いている。	【言】語と語の関係に気をつけて文の意味をとらえている。